

10月上旬から中旬までの台風に対する農作物等の対策

1 普通期水稲

(1) 事前対策

ア 排水路等を点検・整備し、長時間の冠水、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 水田や用排水路等の土砂、木切れ等はできるだけ早く取り除き、水管理に支障がないようにする。

イ 冠水した水田は速やかに排水し、成熟期に達しているほ場では最終落水とし、成熟期に達していないほ場では、新しい用水に入れ替える。

ウ 高潮などで海水が流入した水田は、速やかに排水し、かけ流しをする。

エ 病害（白葉枯病など）の発生に注意し、必要に応じて防除を行う。

2 さつまいも

(1) 事前対策

ア 排水溝を点検・整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。

イ 潮風害が予想されるほ場では、可能な限り散水し、塩分を洗い流す。

3 さとうきび

(1) 事前対策

ア 排水溝を点検・整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。

イ 潮風害が予想されるほ場では、可能な限り散水し、塩分を洗い流す。

ウ 株元が露出したり倒伏した株は、可能であれば引き起こし、必要に応じて培土を行う。

エ 新植夏植えは苗が流出したら補植、埋没したら芽掘りを速やかに行う。

4 大豆

(1) 事前対策

ア 排水溝を点検・整備し、滞水防止に努める。

(2) 事後対策

ア 滞水したほ場は、速やかに排水する。

イ 株元の土が洗い流された場合は、土寄せを行う。

5 野菜

(1) 事前対策

ア 防風垣、防風ネット等の補強を行い、強風による被害を最小限に食い止める。

イ ほ場での滞水を防ぐため、排水溝の整備を行う。

ウ かぼちゃ、豆類、葉根菜類は、可能であれば寒冷紗等で被覆する。つる性のきゅうり等は「つる下げ」を行い、被覆資材等で被覆する。できない場合は支柱やネットが倒れないようにしっかりと固定する。

エ ピーマン、ナス等定植直後のものは、支柱から取り外して株を倒せる場合は倒し、倒せない場合はできるだけ低くして、被覆資材等で上から押さえ、しっかりと固定する。

オ 根深ネギは、土寄せをしたりテープを張るなどして、茎葉の折損、倒伏を防ぐ。

カ そらまめ、スナップえんどう等は、寒冷紗等で被覆する。

キ 定植後のキャベツは、防風ネットや寒冷紗等で被覆する。

ク 育苗中の苗は、安全な場所に持ち込むか、被覆資材等でトンネル被覆する。

ケ 収穫期に近い野菜は収穫する。

(2) 事後対策

ア きゅうり等でつる下げを行ったものは、速やかにつる上げを行う。

イ 被覆資材等は、直ちに除去する。

ウ 茎葉の折損部からの病害侵入を防ぐため、直ちに薬剤散布を行う。

エ 草勢の回復を図るため、葉面散布または化成肥料による追肥を行う。

オ 潮風害が予想される場合は、速やかに散水し塩分を洗い流す。

カ 室内に持ち込んだ苗は、速やかに外へ持ち出し、広げる。

キ 種が流亡したり、苗傷みのあるものは、まき直したり、再定植する。

6 花 き

(1) 事前対策

- ア 作業は、母株→苗→本ぼの優先順位で事前対策をとる。
- イ キク母株は、可能な限り採穂・冷蔵し、残った株を防風ネットやベタ掛け資材で被覆し、しっかり固定する。
- ウ 育苗中の移動可能な苗は、安全な場所に収納する。
- エ 草丈の低いものは、ベタ掛け資材で被覆し、サイドをしっかり固定する。
- オ 収穫直前の切り花は、台風接近の様子を見てやや硬めでも収穫する。
- カ 鉢物類は、鉢を寄せ、ベタ掛け資材で被覆固定する。草丈の高い大鉢は、一方向に倒す。
- キ 露地のキク等は、支柱を補強（打ち込み直し、本数増加）したり、フラワーネットがずれ落ちないように支柱に固定する。
- ク ほ場の滞水を防ぐため、事前に排水溝の整備を行う。
- ケ 露地電照栽培やビニール被覆除去後の施設栽培では、電照用の電球をはずし、作業場などの台風被害のない場所に保管する。

(2) 事後対策

- ア 作業は、本ぼ→苗→母株の優先順位で事後対策をとる。
- イ 生育中の花き類で倒伏したものは、風が弱まり次第直ちに株の立て直しをする。
- ウ 仕立て直しが可能な花き類は、整枝や株の切り戻しを行い、草勢の回復を待つ。
- エ 潮風害が懸念される場合は、速やかに散水し、塩分を洗い流す。
- オ 株に泥が付着している場合は、速やかに水で泥を洗い流す。
- カ 殺菌剤の散布を行い、病害の予防を図る。
- キ 露地のキク等は、軽く中耕・土寄せを行い、薄めの液肥を施用する。
- ク 遮光資材で、強い光や降雨から植物を守る。
- ケ はずした電球を速やかに取り付け、電照やタイマー、冷蔵庫など電気設備の再点検を行う。

7 果 樹

(1) 事前対策

- ア 防風樹や防風施設の点検・整備を行う。
- イ 幼木や若木は、倒伏しやすいので、支柱を立てて補強する。
- ウ 高接ぎ樹等は、接ぎ木部から裂けやすいので支柱に誘引する。
- エ 病害が発生する恐れがあるので、予防散布を行う。
- オ 排水溝を点検・整備し、滞水防止に努める。
- カ 하우스内に雨水が流入しないように対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 潮風害が予想される場合は、速やかに散水し、塩分を洗い流す。
- イ 倒伏樹は、速やかに起こし、株元に土入れして再倒伏を防ぐ。
- ウ 枝裂けや枝折れがあれば切除して、癒合剤を塗布する。
- エ 病害が発生する恐れがある果樹では、速やかに薬剤散布を行う。
- オ 腐敗果実は摘果して、園外に持ち出す。
- カ 樹勢の低下が予想される場合は、樹勢回復を図るため葉面散布を行う。

8 茶

(1) 事前対策

- ア ほ場内に雨水が流入しないよう、排水溝の点検・整備を行う。
- イ 茶園に防風ネットを設置している場合には、保守・点検を行う。
- ウ 潮風害が予想される場合は、台風通過中から散水を行うと効果がある。
- エ 幼木園では、折損や倒伏等を防ぐため、状況に応じて徒長枝の剪除を行う。
- オ 防霜ファンの支線等を外している場合には、元に戻す。
- カ 製茶工場の電気施設及びガス・重油保管施設は、電源や元栓を確認する。また、煙突や、排気口・換気扇等の補強・整備を行うとともに、工場内を見回り、電子機器等に水分が付着しないよう対策を行う。

(2) 事後対策

- ア 潮風害が予想される場合は、速やかに散水し、塩分を洗い流す。
- イ 秋冬番茶の生産は、強風による摘採面の落葉等を除去し、異物混入のないようにする。
- ウ 肥料が流亡している可能性があるほ場は、再度施肥を行う。
- エ 幼木園で、株元の土が流亡したり茶樹が横倒しになったりしている場合には、速やかに土寄せを行い踏み固める。また、欠株が生じた場合は秋以降に補植を行う。

9 畜産

(1) 事前対策

- ア 畜舎の補強や物が飛散しないよう格納，固定する。
- イ 畜舎やほ場周辺の排水溝を清掃，点検し，滞水防止に努める。
- ウ 給餌，搾乳，通風，換気等電力施設・機械を利用しているところは，停電が予測されるので発電機を準備する。
- エ 収穫期が間近な作物は，できるだけ台風前に収穫する。

(2) 事後対策

- ア 畜舎内外で滞水したときは，排水し，消毒する。
- イ 生育初期の飼料作物で，被害の大きいほ場は播き直す。
- ウ 今後生育が見込まれるトウモロコシ，ソルガム等は，ほ場の排水を行い追肥をする。

10 園芸作物のハウス等農業施設の保護

- (1) 現在，被覆している施設野菜・施設花き・施設果樹のハウス等施設の補強対策を行う。
- (2) ハウスは，杭の補強とハウスバンドの締め直しを行い，ビニールの破れた箇所は補修し，ハウス全体をしっかりと固定する。
強風が予想される場合は，ビニールを剥ぎ取り，作物は防風ネット等でベタ掛けを行い，保護に努める。
- (3) 防風垣や防風ネットの設置と補強を行う。
- (4) 果樹の防鳥・防蛾用施設（忌避灯・ネットの被覆）の補強，ナシ・ブドウの果樹棚は張力専用線を用い，中柱の補充と周囲線の補強を事前に行う。